

第104回福島県災害対策本部会議（概要）

災害対策本部総括班まとめ

- 1 日 時：平成23年4月23日（土） 10:30～10:55
- 2 場 所：災害対策本部・自治会館303会議室
- 3 内 容：

※知事は復興会議のため欠席

（1）最新の被害状況について

事務局：第124報により説明

- ・ 0時25分の余震の影響については、広野町で震度5弱となったが、今のところ被害の報告はなし。
- ・ 避難の状況については、二次避難は458名増の14,495名。
- ・ 人的被害については、死者2名増の1,376名、行方不明は1名減の1,381名。
- ・ 停電について、623戸減の34,567戸。

（2）モニタリング結果について

生活環境部次長（県民安全担当）：別紙資料により説明

- ・ いずれの地点も概ね横ばい又は減少傾向。

（3）「福島県被災者情報集約・双葉郡支援センター」稼働状況

文化・スポーツ局長：別紙資料により説明

- ・ 避難者登録受付状況について、4/22は1,715件、累計12,275件。
- ・ 避難所入居者問い合わせ状況については、4/22は80件のうち、情報提供人数は12件、累計1,033件。

松本副知事：

一次避難所から二次避難所へシフトしてきて、二次避難が数が多くなっている。今までやってきた被災者の方々に対する情報提供・収集のやり方、医療ケアのやり方が様変わりしてくる。それにどう対応するか検討していれば説明してほしい。

文化・スポーツ局長：

一次避難所には多数の方がいたが、二次避難所は、旅館・ホテルでありばらつき、少人数である。週2回の壁新聞を作成し提供してきたが、近々そのダイジェスト版を作成して一次・二次避難所にいる全世帯に配る予定である。配るのは避難元の市町村の職員、地方本部の職員が協力・連携しながら実施したい。

松本副知事：

遅くならないように、またどんなことに困っているかを聞きながら被災者支援に当たるようにすること。

保健福祉部長：

保健の活動、医療の活動について、二次避難所は一次避難所より生活環境の改善が図られており、少なくなっている。二次避難先（旅館・ホテル）は多数で広域であるので、被災市町村からの応援要請に基づき、二次避難所も回ってハイリスク（要支援者）の方の洗い出しを行い、そういう方々を中心に訪問・ケアをしたい。また、医療の提供については、一次避難所の巡回は継続し、二次避難所については地元の医療、近くの医療機関を利用してもらうよう誘導したい。

松本副知事：

二次避難が増えてきたことを踏まえ、被災者支援をもう一度検証し、実行してほしい。

(4) 緊急被ばくスクリーニングの活動状況について、緊急被ばくスクリーニングについて

保健福祉部長：別紙資料により説明

- ・ 4/21は4,621人と多くなっている。10万cpm以上の人はいない。累計168,462人。
- ・ 本日も11箇所で行う。なお、福島市のあづま総合体育館は4/24で終了（人数が減ってきたため）する。また会津若松市のスクリーニング会場は4/25よりあいづドームから会津保健福祉事務所に変更になる。

(5) 「放射線に関する問い合わせ窓口」の利用状況について

企画調整部長：別紙資料により説明

- ・ 4/22は246件（+10件）。
- ・ 文部科学省の基準についての質問や要望で $3.8 \mu\text{Sv/h}$ と基準があるが、もっと安全に配慮しそれ以下でも屋外活動を制限してほしいと要望があった。
- ・ 警戒区域の家畜を避難したい、また警戒区域の家畜の世話をしたいとの要望があった。
- ・ 日常生活に関する問い合わせについて、雨に濡れること、洗濯物を外に干すこと、草むしりなどについて問い合わせがあり、いずれも問題ないと回答している。
- ・ 福島市の測定値について、積算値で考えても大丈夫かという質問があり、健康被害が出るのは100mSvとされており、今の状況では心配ないと回答した。
- ・ 定期的な健康診断、健康調査を行ってほしいと要望があった。
- ・ CT、MRIなどの放射線の累積が心配という問い合わせについて、問題ないが心配なら主治医に相談するよう回答した。
- ・ 警戒区域内でも、福島市より環境放射能が低い場所もあるが、それでも区域の設定は必要かという問い合わせがあった。

松本副知事：

- ・ 健康調査とあったがそれはどういうことか。

企画調整部長：

- ・ 通常より高い放射線レベルにあるので、県民の方が心配している。子供、大人も含めてどういう健康上の影響があるか継続的に調査、検診してほしいとの意見があった。

松本副知事：

- ・ しっかりと検討してほしい。

(6)「農林水産業に関する相談窓口」の利用状況について

農林水産部長：別紙資料により説明

- ・ 件数76件（累積4,261件）
- ・ いわき市の方より、屋内退避からの変更により作付けが可能になったが、種もみを返したのでできない。補償はどうなるのかという問い合わせがあった。
- ・ 花の生産農家より、計画的避難地域内のハウスに通っての農業はできるのかとの問い合わせについては今のところはっきりとした回答ができない。
- ・ 山菜の出荷に関する問い合わせ、また今後出てくる果樹のモニタリングはやるのかとの問い合わせがあり、それについては随時実施したいと回答した。
- ・ 家庭菜園について、消費できなくなったがそれに対する補償はどうなるのかという問い合わせがあった。
- ・ 茨城県の母親の母乳に放射線が出たという報道から、福島県の農産物は大丈夫かという問い合わせがあった。

松本副知事：

- ・ 計画的避難地域への通勤農業についてはオフサイトセンター等に確認し回答するように。果樹のモニタリング調査の体制について説明してほしい。

農林水産部長：

- ・ モニタリングは、現在千葉の日本分析センターにお願いしており、1～2日かかる。緊急のものは福島市にある原子力センターで分析している。分析機器を国にお願いしたところ、数台借りることができるようになり、5月下旬をめどに県の農業総合センターに設置する予定。そうなれば県内でも分析が可能となる。

松本副知事：

- ・ 福島農産物を待っている人が多いので、体制を整え、安全なものをアピールしていきたい。
- ・ 本日夕方の本部会議はなし。ただし緊急の必要があれば実施する。明日の本部会議は10時30分より実施する。

C

C

第105回福島県災害対策本部会議（概要）

災害対策本部総括班まとめ

- 1 日 時：平成23年4月24日（日） 10：38～11：00
- 2 場 所：災害対策本部・自治会館303会議室
- 3 内 容：

（1）最新の被害状況について

事務局：第126報により説明

- ・ 避難の状況については、二次避難は278名増の14,773名。
- ・ 人的被害については、死者が1名増の1,379名。

（2）モニタリング結果について

生活環境部次長（県民安全担当）：別紙資料により説明

- ・ 引き続きいずれの地点も概ね横ばい又は減少傾向。

（3）「福島県被災者情報集約・双葉郡支援センター」稼働状況について

文化・スポーツ局長：別紙資料により説明

- ・ 避難者登録受付状況について、4/23は1,862件、累計で14,137件。
- ・ 避難所入居者問い合わせ状況については、4/23は44件の問い合わせがあり、うち情報提供は8件、累計1,041件。

（4）緊急被ばくスクリーニングの活動状況について

保健福祉部長：別紙資料により説明

- ・ 4/22は1,412人であり、10万cpm以上の人は無し。累計で169,874人。
- ・ なお、福島市のあづま総合体育館は本日で終了し、会津若松市の会場は、4/25よりあいづドームから会津保健福祉事務所に変更になる。

（5）「放射線に関する問い合わせ窓口」の利用状況について

企画調整部次長：別紙資料により説明

- ・ 相談件数は211件（前日△35件）。
- ・ 主な問い合わせとしては、メッシュ調査など測定値に関することや、健康への影響、家庭生活上の不安などが多いほか、線量計の配布要望、学校生活に対する不安など寄せられている。
- ・ 具体例をいくつか紹介すると、学校については、引き続き各学校をきめ細やかに放射線測定して欲しい、子供に線量計を持たせて欲しい、校庭の土壌を改良してもらえないかなどの要望が寄せられている。
- ・ 日常生活については、エアコンの使用・換気は大丈夫かなどの問い合わせがあり、指定等の無い通常の地域においては心配ないと回答している。

- ・ また、福島・郡山の方から避難区域等に指定されるのではないかと不安の声が寄せられ、これに対して、現在の状況で、今後大きな事故等が無ければ、新たに区域指定されることはないとは回答している。

(6)「農林水産業に関する相談窓口」の利用状況について

農林水産部長：別紙資料により説明

- ・ 件数64件（前日△12件）
- ・ 問い合わせの主な内容であるが、営農については、屋内退避区域が解除されたいわき市の方より、作付けは大丈夫になっても売れないだろうから、その場合は補償してもらえるのかといった相談が寄せられ、これに対して、風評も含めて補償されるよう国に求めていくと回答している。
- ・ また、学校、幼稚園の土壌検査の値と農作物の関係について問い合わせがあり、農作物の土壌検査との違いを説明し、大丈夫である旨を回答している。
- ・ 家庭菜園、自家消費等については、現在出荷制限等がなされている野菜をこれから作っても良いのかとの問い合わせがあり、これに対して、特に規制は無いが今後のモニタリング結果を注意して欲しいと回答している。

(7) 警戒区域内における緊急対応について

農林水産部長：別紙資料により説明

- ・ 20km警戒区域内の家畜の取扱いについては、国と調整を進めているところであるが、最近、死亡家畜なども多くで出ることから、緊急的な措置として対応を決めたものである。
- ・ まず一つは、死亡畜への消石灰散布と、散布後のブルーシートによる遮蔽といった緊急的な衛生対策。
- ・ 二つめとして、ひん死畜及び緊急的措置が必要な野放し畜等については、所有者の同意を前提として、応急的にやむを得ない場合の殺処分等の措置を予定している。
- ・ 実施時期は、明日4月25日から始めることとし、当面25日は南相馬市小高区、26日は田村市都路町を複数班で対策を実施する予定となっている。
なお、27日以降も順次20km圏内で実施していきたいと考えているが、放射線量の関係で難しい地域がありつつも、可能な限り緊急対応を実施していきたい。
- ・ 実施体制は、県家畜保健衛生所を中心として県農林事務所のほか、畜産関係団体等の協力を頂きながら、5月上旬までを目途に実施していきたいと考えている。

松本副知事：

20km圏内の牛、豚、ニワトリはどれぐらいいるのか。

農林水産部長：

昨年10月時点で、牛が約4千頭、豚が約3万頭、ニワトリが約63万羽。

松本副知事：

線量が非常に高くて厳しい地域とはどのあたりを想定しているのか。

農林水産部長：

国のモニタリング結果などから見て線量的に、大熊町、双葉町、浪江町などは厳しいと考えている。

なお、そのほか、川内村、楢葉町、富岡町など入れるところは順次入って実施していきたい。

松本副知事：

これらの措置は現行法上の規定はあるのか。

農林水産部長：

家畜伝染病基本法等の対応において殺処分等が決められているが、原子力災害時の取扱いについては規定が無く、法的根拠も無いことから、国と早急な対応をとるために調整している。

松本副知事：

実施体制は県職員を中心に考えているようだが、各県への要請など関係機関の協力が必要な場合は、早めに協議すること。

農林水産部長

現在、国の担当課とも打ち合わせをしており、出来るだけ早く実施できるよう努めたい。

(8) 被災者生活再建支援金制度について

事務局：別紙資料により説明

- ・ 被災者生活再建支援金制度について、過日、本部会議において内閣府事務官より説明のあった内容をチラシにしたものがあるが、自然災害により住宅が全壊するなど、生活基盤が著しい被害を受けた世帯に対して支援金を支給する制度である。
- ・ 市町村における手続きの際の提出資料などについては、弾力的運用がなされており、市町村と連携しながら、被災者の皆様に速やかに支援が届くよう取り組んでいきたい。

知事：

住宅の二重ローンの問題に対する答えはどうなっているのか。

内閣府事務官：

金融庁等に確認しているが、やはり個別対応になろうということであった。

知事：

今後、二重ローンで苦しむ人が相当数出てくると思われるので、関係機関としっかり調整していただきたい。

(9) 「がんばろう ふくしま」について

直轄理事：口頭説明のみ

- ・ いまだに原子力災害が続いている厳しい状況ではあるが、一方で復興に向けて、元気な「ふくしま」を発信していくため、知事以下「がんばろう ふくしま」というロゴを入れた名詞を作成する。
- ・ また、同じく「がんばろう ふくしま」というロゴの缶バッチが明日には出来上がるので、みんなで身につけて元気な「ふくしま」を取り戻していきたいと考えている。

松本副知事：

缶バッチ、楽しみにしている。

(10) 放射性物質と農業に関する講演会について

農林水産部長：口頭説明のみ

- ・ 土壌の調査及び稲の作付けに関する方針等の作業でお世話になった学習院大学の村松康行教授より、本日午後、福島市内で「放射性物質の農耕地への影響と留意点」と題した講演をいただく予定となっており、農業者、農業関係団体、市町村職員など幅広く聴講して、今後の営農への参考としていただきたいと考えている。
- ・ 今後もこのような機会を設けて、農業に関する放射線の影響についての理解を深めていきたいと考えている。

知事：

昨日の政府の復興構想会議では、復興に向けた様々な計画が示され、一日でも早く踏ん切りをつけたいと思いながらも、原子力災害が長期間にわたり継続中であると話してきた。

今までに無かったような様々な風評被害が、これからの争点となってくると思うので、実態把握に努めながら、国に伝えていきたい。

皆、心一つにしてがんばりましょう。

松本副知事：

次回の本部会議は、緊急時を除き、明日の午前10時からとする。